

住信為替ニュース

THE SUMITOMO TRUST & BANKING CO., LTD FX NEWS

第1710号 2003年11月25日(火)

既に始まっている欧米の市場では、ドルが上昇し、つれてニューヨークの株価も大きく反発しました。ドルは先週史上最安値に落ち込んだユーロに対して200ポイントほど反発したに過ぎないが、それでもこのドルの反発を見てニューヨークの株式相場は上昇した。ダウは119ドル26セント高、Nasdaqは53.26ポイント高。

ドルの下落は見方によってはアメリカ経済の競争力回復を意味し、株価にはプラス材料になりうるもの。しかし今回の対ユーロでのように「史上最安値」などの声が聞かれる緊迫事態になると、連想が「アメリカ国内の金利上昇懸念」などに移り、株式市場にマイナス材料となる。昨日は史上最安値の連続にならずにドルが対ユーロで反発したことを、ニューヨークの債券、株式市場は安心材料とした、という図式です。

最近感じていたのは、アメリカ経済の先行きに対する米国内勢と海外勢の見方の食い違いです。これを今日の記事の見出しにしているのはジェイ・ウッドワード。日経金融新聞2面右の記事見出しには彼の、「米経済の見方 内外で差」という文章がある。この文章は、そういう意味で興味を持って読んだ。

内容はたいしたものではなく、見出しが勝った文章のように読めたが、この「アメリカ経済に対する内外の見方の差」は確かにある。アメリカの双子の赤字やイラクでの米軍に対する続発テロ、それに国内での投信不信などを懸念している海外勢から見ると、ニューヨークの金融市場に存在するアメリカ経済への楽観論は根強い。それはウッドワードが列挙している通りだ。だから、この楽観論に基づく株や債券、それに株式の動きにも海外勢を驚かさずものが時としてある。

海外勢のアメリカ経済に対する懸念が当たっているのか、それともアメリカ国内の楽観論が当たっているのか。恐らくそこには「時間軸」の問題がある。海外勢は少し長めに見ている。対して、国内勢はせいぜい来年末までのアメリカ経済を見ている、という図式かもしれない。先週のレポートで指摘した通り、来年末までのアメリカ経済は成長率で言うと4%前後の高い水準になる。その間に失業率も減少するだろうし、企業の利益は高い水準を続けると見ることが可能。

対して海外の目は、中東の安定化失敗を起因とする「アメリカの帝国としての地位の低下」から始まって、「双子の赤字の結末」(アメリカの資金調達懸念や金利上昇) アメリカ国民の過剰消費体質にまで向いている。恐らく、アメリカの為替、株、債券相場はこの二つのしばしば対立する見方の中で揺れ動くのでしょう。先週は明らかに「悲観論」が勝っ

ていた。対して、今週のニューヨーク市場は明るいスタート。市場との対峙という意味では、どちらの「時間軸」が今の市場の見方を支配しているか、「次」を支配するのがどちらかを見るのが仕事になる。

アメリカがイラクで直面している困難な事態（軍に対する攻撃、兵士の死など）やテロに関して一言触れておくと、海外勢の中にはこれを「アメリカの弱体化」と見る見方が強い。そうなのだが、ではイラクでの事態やテロが世界の資本やモノの流れを“直ちに”変えるかと言えば、それはない。アメリカ兵士の死やテロでの死者続出は確かに悲惨だし政治的には重いが、経済全体を揺さぶるものではない、ということだろう。アメリカ国民の消費行動を見ていると、少数の兵士がイラクで死んだからといって、抑制傾向が出るといった傾向は出ていない。海外勢の方が「懸念が強い」ということだろう。

昨日のニューヨーク市場が株と為替（ドル）が大きく上げたのは、今週発表される指標には米経済の強さを示すものが多いだろう、との見方による。第三・四半期の成長率の上向き改訂を見る向きもあるし、週末に出る雇用統計の改善を見込む見方もあった。先週の悲観論に対する反省も今週の市場には出てこよう。投信不信などが相場に織り込まれ、来週からは来年を望む12月が始まるとの事情も市場には影響しているかもしれない。

しかしながら筆者は、ドルが持続的に上昇する事態を見ていない。ドルの底意は弱いと考える。円には上昇圧力があろうが、東京の株には月替わりという事情もあり上への動意があると思う。ニューヨーク市場の先行きを占う上で重要なのは、債券相場の動きだろう。10年債の利回りが4%の前半で推移している間は、ニューヨークの金融市場は安定していると言える。

今週は日本のアメリカも休みの多い週で、動きにくい面がある。しかし、案外株も為替も動意を見せるかもしれない。来週は12月です。

今週今日以降の主な予定は以下の通りです。

- | | |
|-----------|---|
| 11月25日（火） | 米第3四半期企業収益（速報）
米第3四半期GDP（暫定値）
米第3四半期個人消費（暫定値）
米10月中古住宅
米11月コンファレンスボード消費者信頼感指数 |
| 11月26日（水） | 福井日銀総裁定例記者会見
米10月新築住宅販売
米10月耐久財受注
米10月個人消費・支出
米11月ミシガン大学消費者信頼感指数（確報）
米11月シカゴ連銀指数
ページブック |

11月27日(木)	米国株式市場休場(サンクス・ギビング・デイ)
11月28日(金)	10月鉱工業生産(速報)
	10月勤労謝世帯家計調査
	11月都区部 10月全国消費者物価
	10月完全失業率
	米債券市場半日取引

《当「ニュース」は、住信基礎研究所主席研究員の伊藤(E-mail ycaster@gol.com)が作成したものです。許可なき複製、転送、引用はご遠慮下さい。また内容は表記日時に作成された当面の分析・見通しで一つの見方を示したものであり、売買を推奨するものではありません。最終的な判断は、御自身で下されますようお願い申し上げます》